PRESS RELEASE

報道関係各位

2026 年 11 月 16 日

Ｈｍｃｏｍｍ株式会社
（東証グロース 265A）

AI による下水道腐食リスク予測の取り組みが水道産業新聞に掲載

AI 異常検知ソリューション「FAST-D」によるインフラメンテナンス DX に取り組むＨｍｃｏｍｍ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：三本 幸司、以下、Ｈｍｃｏｍｍ）は、広島県福山市において進めている AI による下水道管路の腐食リスク予測に関する実証の取り組みが、水道産業新聞（2026 年 11 月 12 日付）に掲載されたことをお知らせいたします。



ＡＩで下水道の腐食リスク予測

Ｈｍｃｏｍｍ 福山市での実証開始

Ｈｍｃｏｍｍは、広島県が実施する「The Meet 2026 広島オープンアクセラレーター Gov-Tech-Challenge」において、福山市が提示した「下水道管の無人インフラ点検・診断」の課題に対し、同社が提案した「ＡＩによる下水道腐食リスク可視化と重点点検支援」が採択され、10月から実証を開始したことを発表した。実証では、下水道・管路情報、点検・修繕履歴、腐食履歴、都市・建物情報、地形・管路条件（落差・合流等）などの既存データを活用し、腐食や硫化水素の発生要因を分析することで、高リスク候補地点を抽出する。さらに、硫化水素や溶存酸素、水位・水温、管内流水音等の継続計測を組み合わせ、ＡＩによる下水道管路の腐食リスクの推定・可視化に取り組む。同社は、滋賀県守山市における上水道の漏水検知実証で培った「広域データから高リスク地点を抽出し、重点的に現地確認を行う」というアプローチを下水道分野へ展開し、下水道インフラの重点点検・予防保全の実現を目指す。福山市向けの提案においても、上水道で実証した「リスク抽出・重点点検」の考え方を下水道の腐食リスク予測へ展開することとしている。

実証では、①広域分析・候補地点抽出②現地確認・実証地点選定③センサー設置・継続計測④データ分析・ＡＩ検証⑤結果評価・実用化に向けた検討―の流れで下水道腐食リスク予測ＡＩの有効性を検証する。

①は下水道・管路情報、点検・修繕履歴、腐食履歴、都市・建物情報、地形・管路条件（落差・合流等）などの既存データを活用し、腐食・硫化水素の発生要因を分析することで、高リスク候補地点を抽出する。②は広域分析の結果と現場の状況を踏まえ、継続計測を行う実証地点を選定する。③は硫化水素に加え、溶存酸素、水位・水温、管内流水音等の複数データを継続的に取得する。④は複数の環境データと硫化水素の発生条件、管路腐食との関係を分析し、ＡＩによる腐食リスク推定モデルを検証する。⑤は実証結果と現場で得られた知見をもとに、計測方法やＡＩ予測ロジックを改善し、継続的な監視や実用化に向けた検討を進める。

実証では、森田弘昭・日本大学特任教授から実証全体を通じて技術監修・助言を受ける。広域分析におけるリスク要因や候補地点抽出ロジック、硫化水素の発生条件、硫化水素と管路腐食との関係性、ＡＩ・データ分析結果などについて、専門的な観点から確認・助言をもらいながら実証を進める。実証期間は10月から来年3月の予定。

同社は滋賀県守山市において、水道管情報、地理空間データ、衛星データ、修繕履歴等を活用した広域リスク分析と、音響解析ＡＩ技術を組み合わせた漏水検知モデルの検証を進めてきた。守山市との実証では、ＡＩによる広域漏水リスク分析と漏水音解析ＡＩの有効性を確認するとともに、高リスク地点を対象とした現地調査により、実際に複数箇所で漏水を発見・確認している。

今回の福山市での実証では、この「広域分析→リスク抽出→重点点検」という考え方を下水道へ展開し、腐食リスクの早期把握を目指す。「The Meet 広島オープンアクセラレーター Gov-Tech-Challenge」は、広島県内の市町が抱える地域課題・行政課題と、革新的なアイデアや技術を持つスタートアップ等をマッチングし、自治体を実証フィールドとして課題解決に取り組むプログラム。今年度は、40件の募集課題に対して299件の提案が寄せられ、22件の実証プロジェクトが採択された。

今回の記事では、広島県福山市において実証を進めている「AI による下水道腐食リスク可視化と重点点検支援」の取り組みについて紹介されています。本実証は、広島県が実施する「The Meet 広島オープンアクセラレーター Gov-Tech-Challenge」に採択されたもので、下水道管路の腐食リスクを AI によって推定・可視化し、効率的な点検や予防保全の実現を目指すものです。

本実証では、下水道管路情報、点検・修繕履歴、腐食履歴、地形・管路条件などの既存データを活用した広域分析により、腐食リスクの高い候補地点を抽出します。さらに、現地確認を通じて実証地点を選定し、硫化水素や溶存酸素、水位・水温、管内流水音などの継続計測を行うことで、AI による腐食リスク予測モデルの有効性を検証します。

また、記事では、当社が滋賀県守山市で進めてきた上水道の漏水検知実証で培った「広域分析によるリスク抽出と重点点検」の考え方を、下水道分野へ展開する取り組みについても取り上げられています。

本実証では、日本大学の森田弘昭特任教授から技術監修・助言を受けながら、腐食リスクの要因分析や AI 予測ロジックの検証を進めてまいります。

今後は、福山市での実証を通じて、広域分析と現地計測を組み合わせた腐食リスク予測技術の高度化を図るとともに、下水道インフラの効率的な維持管理や予防保全への実用化を目指してまいります。

当社は今後も、自治体や専門家、関連企業と連携し、AI 技術とセンシング技術を組み合わせることで、持続可能な社会インフラの維持管理に貢献してまいります。

■関連記事

「Ｈｍｃｏｍｍ、下水道インフラ分野への事業展開を本格化― 広島県福山市で AI による腐食リスク可視化・重点点検の実証を開始 ―」

https://note.com/hmcomm_ir/n/na46e907929c5

■Ｈｍｃｏｍｍ株式会社について

代表取締役社長 CEO　三本 幸司

URL　https://hmcom.co.jp

設立日　2012 年 7 月

所在地　東京都港区浜松町 2-10-6 PMO 浜松町Ⅲ4 階

事業内容　人工知能（AI）音声処理技術を基盤とした要素技術の研究/開発およびソリューション/サービスの提供

＜本リリースに関するお問合せ＞
報道関係者様：Ｈｍｃｏｍｍ株式会社 IR 担当　hm_ir@hmcom.co.jp
企業様：Ｈｍｃｏｍｍ株式会社 営業統括部　sales_team@hmcom.co.jp
TEL：03-6550-9830　FAX：03-6550-9831